

灯火親しむべし

これは、中国唐時代詩人韓愈の作品「符読書城南」にある一節です。秋の夜は灯りの下で読書するのにふさわしい。というような意味です。

現代では、一日の大部分をスマホ等の画面を見て過ごしている。なんてことが当たり前になっています。

そんな環境の中であえて本を読むことを薦めたいのです。画面を見ればすぐにすべてが解決することは、とても便利かもしれませんが。しかし、行間に込められた思い。読み進めないとわからない結論。本でしか得られない感動がそこにあります。昨日ふと、本棚から手にした背表紙が日に焼けて茶色くなった本。高校生の時に行き帰りの電車で読んでいたもの。ページをめくった瞬間に高校生の自分が蘇って、不思議な感覚にとらわれました。スマホ等では決して経験のできない懐かしい感覚。あたかもタイムマシーンに乗ったようでした。

一、二年生は高校生活のヒントに、三年生も受験勉強の気分転換に。

秋の夜長、スマホ等から目を離し、気になる一冊に手を伸ばしてみてください。

戊戌（つちのえいぬ）年霜月朔日